

# 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 中尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none"><li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

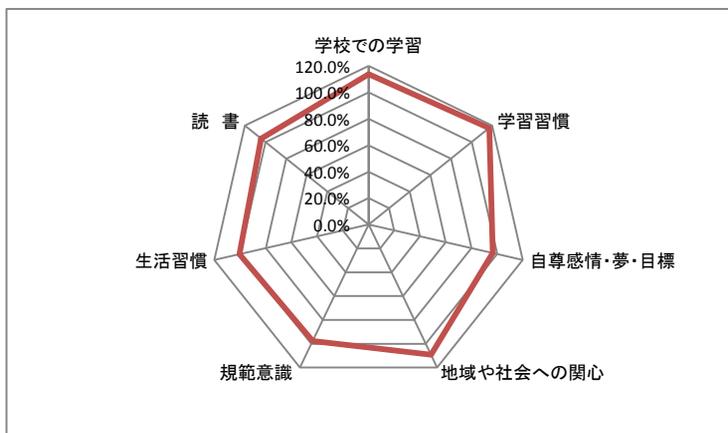
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別漢字配当表に示されている漢字を文章の中で正しく使うなど、言語に対する知識・理解・技能は高い。</li> <li>・文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むなど、「読む」能力に課題が残った。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文章の中で正しく使う問題。(問題番号1四(1)ア、1四(1)ウ)	
	努力が必要な問題	・文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題。(問題番号2-(1)、2-(2))	
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な考え方など、説明する力を問われる問題に対する理解力は高い。</li> <li>・数量や図形についての知識を活用する問題に対して、さらに力をつける必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・被除数と除数に、掛ける数や割る数を選び、わり算を計算しやすくして計算する問題(問題番号3(3))	
	努力が必要な問題	・図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する問題(問題番号(2))	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に関しては、家庭での学習習慣、学校での学習共に高く、特に教師の指導に対して91.9%の児童が「分かるまで教えてくれる」と感じており、家庭学習も85.5%の児童が1時間以上、30.7%が2時間以上の学習を行っている。</li> <li>・自尊感情に関しては自らの将来への目標がもてない児童が20.9%存在し、自分によいところがあると思っている児童は82.8%であるのに対し、自分の長所を社会で生かしていく方法が見つけられていない現状が推察される。</li> <li>・規範意識に関しても約10%が「学校のきまり」を守っていないと答え、児童会活動・学級会活動や総合的学習を通しての児童の自主性や自治力を育成するための取り組みが求められる。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・全校で一時間の学習を大切に「学ボード」の活用や自主的な活動を行う教科指導を継続・発展させ、自分の考えをより広く、深い考えへと追求する取組を実践する。
- ・授業時間とは別に、中尾タイムという学力補充のための時間を設け(全員参加)、5,6年生は、火・木を中尾タイムロング(40分)とし、ひまわり学習塾の指導員や低学年の学級担任も参加して、5,6年の学級担任と共にきめ細かな指導ができるような体制作りをしている。
- ・学年外の教師を中心に、朝自習の時間を使い取り出し指導を行い、少人数にて基礎的な内容の定着を行っている。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・全学年で学校で取り組んでいる自学ノートの活用を継続するとともに家庭学習のスケジュール・内容等も計画・実践できるように家庭と連携していく。
- ・「学校だより」等で、家庭学習の大切さを取り上げ、保護者に啓発していく。
- ・規範意識向上のため中学校区で、「あいさつ運動」を共同で取組を行っている。委員会であいさつカード等の取組も行っている。